

検査を受けない⑤の理由

理由1 時間が合わなくて行けない…

HIV検査を受けたい気持ちはあるけど、日中の仕事をしているとなかなか受けに行きにくい。仕事が終わってからだと受けられる検査場も限られる。行きやすかったり夜の時間帯で、検査を受けられればなあ…。

大阪の保健所でのHIV検査は日中の数時間だけなので昼間時間が取れない人にとっては受けにくいのは難しいかもしれません。夜の時間帯に検査できる場所の一つに、街のクリニックがあります。しかも2月末までは、『選べる!!1000円キャンペーン』が実施されています。大阪府内の協力クリニック(7カ所)でHIV検査を含むSTIの検査を1000円で受ける事が出来るキャンペーンです。クリニックの診療時間中に検査を受ける事ができるので、夕方～夜間や土曜日に受ける事も可能です。今まで時間的な事で検査を受けられなかった人には、この機会を利用するのも一つです。

※HIV検査場の検索やクリニック検査の詳細は <http://dista.be/> で調べる事が出来ます。

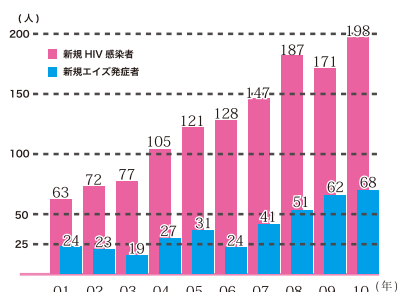
理由2 自分に関係ないから行かない。

HIVがゲイの間で多いという話は聞くけど、自分の周りにはHIVの友達もいないので、本当に身近な病気なのか実感がない。

2010年の大阪のHIV発生動向では、1年間で新たにHIV陽性と知った人の数が266人と報告されています。そのうち、エイズ発症してから感染を知った人が68人で、東京を越えて1位となりました。

10年前の2001年の報告数と比べると、1年間にHIV陽性と知った人が3倍に増えていきます。そして、7割はMSM(男とセックスする男)であることがわかっています。

また、HIVに感染している事に気づいてないまま生活している人もたくさんいると考えられています。HIVに感染しているがどうかは検査を受けないとわかりません。セックス(フェラも含む)をしていれば、誰でも感染する可能性があります。



時間があわなくて…。自分には関係ないし…。結果を知るのが怖くて…。 HIV検査って受けた方がいいけど、色々考えるとなかなか受けに行けないってひともいるんじゃないかな。(2010年にMASH大阪がバーで行ったアンケートの中でHIV検査を受けなかった理由について聞いたところ、1位「場所や時間などの機会がなかった」2位「HIVに感染している可能性がない」3位「結果を知るのが怖い」4位「曖昧なままにしておきたい」5位「ゲイ・バイの説明がめんどろ」という結果でした。) っことで、よく聞く検査に行かない(行けない)理由、5つについて考えてみました。

理由3 感染を知るのが怖い。

HIVとわかったらどうなるのかわからないし、死んでしまおうか考えるど怖くて受けられない。

専門の病院がちゃんとあります。検査でHIV陽性がわかった場合には専門病院を紹介してもらえます。

HIV感染症は、薬を飲んでウイルスの増殖を抑えることができるようになっており、エイズ発症を防ぐことができます。薬の副作用も以前よりは改善されてきています。

専門の病院には、お医者さんやナース以外にもいろんなスタッフがいて、あなたの医療・生活に関する相談ができます。医療費の自己負担分を少なくするための制度もあります。

HIV(エイズウイルス)を体内から消し去ることはまだできませんが、長くつきあいながら自分らしい生活が送れるようになっていきます。

理由4 感染を知ったらしんどくなりそうだから知らないままでいたい。

感染を知ってしまうと、しんどくなる部分もあるかもしれませんが、でも、感染しているのを知らずに放っておくと適切な時期に治療が開始できずエイズを発症したり、障がいを残したりする可能性もあります。

そうなる前に自分で感染を知ることのメリットは、自分の選択で今後のこと(通院先、治療について、仕事について、周りの人へ言うか言わないかなど)を余裕をもって決定しやすくなることです。

陽性とわかってからのしんどさを支えるために陽性の人同士が集まる場もあるし、相談先もいまはあります。もちろんdistaを利用するのも一つです。ネット上にも陽性者同士がつながり合えるSNSがあります。

10年前から比べるとサポートも増えてきました。陽性とわかったとしても、一緒に考えていける場があることを覚えておいてください。※詳しい情報は、distaホームページ(<http://dista.be/>)の「お役立ちリンク」の「HIVと生活」をチェックしてみてください。また、distaでも情報提供を行っています。

理由5 セクシュアリティに理解があるか不安なので受けにくい。

保健所や保健センターの人たちに、自分がゲイであることを話していいか、それとも話さない方がいいのか、話したところで対応してもらえるのかなど、色々考えると行きにくいのですが…。

話しにくいと感じるかもしれませんが、保健所では話しにくいかもしれませんが、保健所や保健センターの人たちにゲイやバイセクシュアルであることや心配しているセックスについて話しても大丈夫です。もちろん、無理に話さなくても検査は受けられます。話せる範囲を自分で決めて話しましょう。

>>>TEACH



気になるけど、誰に聞いたらいいかわからない。知りたいけど、どうやって調べたらいいかわからない。そんなみんなの疑問に、経験豊富な兄貴(時にはアネキ)が答えるコーナー。

「ひよっこクラブってなんですか??」

陽性ってわかったすぐくらいの時に、何をどうしたらいいか、何から考えたらいいか、わかっている人ってどれくらいいるんだろう。関西には、HIVってわかって間もない人のための場がいくつかあります。その中から、今回は「ひよっこクラブ」について紹介します!



ひよっこクラブ
HIVポジティブとわかって間もない人のためのグループミーティング
tel:050-3123-4608(担当:たけなか)
月曜日～木曜日(13時～17時)
Mail:hiyokko@charmjapan.com
HP: <http://hiyokkoclub.com/>

一ひよっこクラブは どういう会ですか?

HIVポジティブとわかって間もない人たちのためのグループミーティングです。この会は、定員6名の少人数で開催されています。安心できる場所で情報や体験を話したり聞いたりしながら、これからの生活のよりよいスタートにつなげていくためのプログラムです。

一実際の会は どんなことをするんですか?

全3回のプログラムで2週間に1回集まって話をします。進行役となるサポーターの中には、HIVポジティブの人もいて交流や情報交換のお手伝いをしていきます。初回は顔合わせをしながら、安心して話せる場をみんなで作っていきます。2回目では、医療情報をお医者さんと一緒に学びます。また、医療との関わりについて話してみたり、お医者さんへの質問コーナーもあります。3回目では、みんなの話したい話題やこれからの話について話し合います。よく出る話題には、身体のこと、治療のこと、今の気持ち、誰に伝えるか伝えないか、今後の恋愛やセックス、仕事、他のポジティブの人はどうしてる?などがあります。

また、ひよっこクラブ終了後に利用できるサポートについても知ることができます。わかって間もない時期を安心して一緒に過ごせる場にしてもらえたらいいなと思っています。

一参加される方は どんな人が多いですか?

感染がわかって6ヶ月以内の人のためのプログラムです。これまでに参加している人の年齢層は20代～40代と幅広いです。また、HIV感染を知ったきっかけも、保健所などの検査を自主的に受けて感染を知った人、体調不良から病院を受診したことをきっかけに感染を知った人など様々です。自分のセクシュアリティについて話をするかどうかは本人が決めますので、安心してご参加ください。

☆参加対象
HIV感染を知って6ヶ月以内の方
全3回のプログラムに参加可能な人
年齢・性別・性的指向・国籍・感染経路を問わず参加可能

☆参加方法
上記の電話またはメールで参加希望をお伝えください。連絡後、個別にプログラムや参加ルールの説明をします。(会場は大阪市内)

☆その他
参加費は無料です。定員は4～6名で、参加者が4名に見えない場合は延期することもあります。定員を超えるお申し込みがあった場合は、次の期への参加をお願いすることがあります。

☆次回開催予定
今回は5月～6月に予定しています。

>>>HUMAN

今月の「顔」

vol.57 くま 28歳 160・56 O型 さそり座

●今回の特集は「検査について」ですが、検査に行こうって思うときはどんなときですか? 気になる人が見つかったときですね。相手に迷惑がたたくないし、その一方で出来るだけ気持ちいいセックスはしたいし、先ずはその最低限のラインがどこかを知るために受検に行ってると思います。

●休みの日は、どんな風に過ごしていますか? 虹茶房に関わるようになって、美味しいコーヒーって何?って思うようになりました。だから、最近は神戸界限で美味しい喫茶店探しをしてることが多いです。

●実践しているセーファーセックスについて教えてください。コミュニティに所属することでですね。顔出ししてたら下手なと出来ませんから。人間の関係性や属性がもたらす抑止力っていうのは、少なくとも自分には絶対。遠回りのようでは、実は最短ルートのセーファーセックスだと思ってます。

●最後に一言、お願いします。僕もスタッフしてますフレンドリーKOBAYASHIは、月末に神戸・元町/大阪-distaにてカフェイベント「虹茶房」を絶対OPEN中です。また、5月の神戸まつりにはふれんどりーパレードとして出演予定です。皆様のご参加お待ちしております!!

>>>GOURMET

三山やミナミから歩ける範囲にある オモロイところ、オイシイお店を訪ねるコーナー

マリキータ・オニツカ

夜のグルメ世界紀行

しばらく前にご紹介したベトナム料理のお店<インドシナ>で日曜日のお昼ご飯をいただき、トコトコ階段を下りていくと、コンビニの左隣にある本屋さんの看板が目飛び込んで来た。「本屋ですが、本だけではありません」という思わせぶりなコピーが気になったものですが、サア、本以外の何を見せたいだけのかしら、って気分です。入ってみると、え、えええ、っていうくらい広い! 奥までズンズン歩くと、ポピュラー音楽のコーナーで欲しかったブラジル本を見つけ、他の本には目もくれずに買い求め、サア読もう! どこで? え、地下にカフェが? では、と階段を下りていくと、アワワワ、ここも広〜い!! はは〜〜ん、言うならばここはメキシコシティやプエノスアイレスのGHANDI、京都でいえば恵文社、そう、人文・アート系の本とカフェ、文化イベントがセットになったオルタナティブ系文化発信の場なのね、と合点がきました。不思議なのは、GHANDIや欧米のオルタナ・カフェには、どこか「お金と知性のあるところに文化あり」、上から降りてくる文化の匂いがするのですけれど、ここSTANDARD BOOKSTOREにはそんな匂いは微塵も感じられないってことかしら。アメ村の南端っていう土地の問題、それとも……なんでもNU茶室町に支店があるらしいから、そのカフェでお茶しながらゆっくり考えてみますわね。

>>>LIFE



-My Friend is POSITIVE-
HIV感染がわかったとき、まず何を思った? どんな風に感染を受け入れた? HIV陽性とわかった後だって人生は続いていく。なら少しでもポジティブに! っことで、新シリーズ突入! 「HIVの友人がいる人」にぶっちゃけ色々聞いてみました!

カミングアウトされたとき、何を感じましたか?

身近でHIVに感染してる人がいなかったから、言われた時はびっくりしたなあ。何回か体の関係もあったから、余計にびっくりした気がします。挿入の時はゴムつけてたけど、フェラとかはそのままやってたから、もしかしたらHIVに感染してるかもなあとは思ったかな。2ヶ月くらい経ってから(その間そいつとのセックスは控えてたというか、しないで過ごってた)検査に行ったら陰性だったから、そのことを伝えたらほっとしてたというか安心してた。そいつもいつまで多分感染がわかって間もなかったように思う。わざわざこっから聞いたりしなかつたけど。まあHIVに関係なく、体の相性は抜群に良かったので、もっと気をつけた上でそいつとセックスを楽しんでます。(笑)

年齢: 20代後半 HIV+の友人: 1人

何年前かはセンセーショナルというか、言う方も聞く方も衝撃があったような気がします。けど、最近はそうでもないというか、わざわざカミングアウトしなくても良かったというかそんな気がします。まあ、わざわざカミングアウトをしなくてもいいと個人的には思いますし、HIVに感染するとカミングアウトしないといけないうかといったらそれも違うのかなにかオカシイ。ただ、語られない=HIVはない、と安易に思われてしまいがちなので、難しいよなあとも思います。病気になると背負ってしまう色々なものや事がが少しでも少なくなるような社会やゲイコミュニティになつたらいいなと思います。そのためには…どうしたらいいんてしようね(苦笑)

年齢: 30代前半 HIV+の友人: 2人

>>>TOPIC

知っとこ!

セックスライフと健康をめぐるホットな情報

今回のテーマは 『ハッテン場摘発をめぐる朝日新聞記事』

去る2月1日付けの朝日新聞に、昨年10月に東京で起きたハッテン場摘発をめぐる記事が掲載されました。それによると、摘発を受けた店を長い間覚醒剤がらみでマークしていた警視庁の言い分は:

「立ち入り権限がない中、公然わいせつ帮助容疑を適用したのは苦渋の選択だったが、薬物だけでなく、性感染症が広がる恐れがあった。何らかの規制が必要だ」

でした。この言い分について、作家の松沢呉一さんは「覚醒剤だけでなく、性感染症を持ち出して『何らかの規制が必要』と明言しているのは、ハッテン場への本格的な規制に踏み切るための地ならしと見ることができる」と指摘しています。しかし松沢さんもHPで言うとおり、

性感染症の対策は厚生労働省の仕事であって、警察の出番ではない

のは明らかです。朝日新聞はそのことを指摘しておくべきでした。(鬼塚哲郎)

「SaL+」は、MASH大阪が定期的に発行するコミュニティイベントです。SEX and LIFEの頭文字を取って、それに少し付け加えて「+」健康なセックスライフに役に立つ情報や、街の情報を発信していければと思っています。お店やショップで見かけたら、ぜひ手に取って下さいね!!

編集後記

数日前、20代の若者4人と通層過ぎたオッサン(私のこと)で京都の某中華のお店で半生のサザエを食べ、36時間後に全員が食あたりに。ウン十年ぶりに食中毒を経験して、貝類はやっぱりちゃんと火を通したものを食べなきゃね、と自戒。その十日ほど前に通層のお祝いを盛大に祝っていたばかりだったのですけれど、天国から地獄へのつるべ落としの展開に、いくつになっても学びの種は尽きず、てな心境デス(oni)

効率的に仕事ができるようになるにはどうしたらいいかと思ひ、とりあえず「最も仕事がかかどる場所」をここ数週間探し続けていました。カフェや、dista、事務所、ネカフェとか色々試した中で一番良かったのは家のベッドの上でした。(ちなみに2番目はトイレの中)理由は多分、他にやる事が無いからっていうのと、いつでも寝れる安心感、足下があったかいの3点かな。ただ、姿勢が悪いので次の日は大抵腰が痛くなります。

ご意見・ご要望・ご叱咤などがありましたら、FAXまたはEメールにてMASH大阪事務局(1)までお寄せください。

MA・SH・O・S・A・K・A

〒530-0027 大阪市北区堂山町17-5 興ビル4階
TEL/FAX) 06-6361-9300
office@mash-osaka.com
厚生労働省委託事業(同性愛者のHIVに関する相談・委託事業)